

第11回 新規就農推進フォーラム 『実現!! 農系女子の夢』

日時 平成27年10月10日(土)13:00~19:00

【受付 12:30~ 講義棟トリニティホールM2F入口】

場所 東京農業大学農学部厚木キャンパス講義棟「トリニティホール」

【主催】 東京農業大学総研研究会就農者推進教育研究部会
東京農業大学農学部就農者育成支援プログラム検討委員会

【共催】 東京農業大学農学研究所
【後援】 東京農業大学教育後援会

◎基調講演(13:00~15:10)

講演1「赤城山麓で牛を飼いチーズ工房を開く」

松島 薫(有限会社松島農園「チーズ工房Three Brown」平成12年農学科卒)

講演2「農系女子を支援する理由—農系女子が地域と未来を切り開く—」

野村 高志(高知県香南市の先駆的カンキツ農家、就農支援者)

◎討論会(15:30~17:00)

「明るい未来は農系女子にしか創れない」

コーディネーター: 宮田 正信

(東京農業大学総研研究会就農者推進教育研究部会長)

◎情報交換会(17:30~19:00)

場所: レストラン「けやき」(無料)

お問い合わせ先: 〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737
東京農業大学農学部事務部キャリア課 担当: 崎村・大淵
Tel/046(270)6228 fax/046(270)6008
E-mail/career-a@nodai.ac.jp

第11回新規就農推進フォーラム

『実現！！農系女子の夢』

日時 平成27年10月10日（土）13：00～19：00

【受付；12：30～ 講義棟トリニティホール M2F 入口】

場所 東京農業大学農学部厚木キャンパス講義棟「トリニティホール」

主催 東京農業大学総研研究会就農者推進教育研究部会
東京農業大学農学部就農者育成支援プログラム検討委員会

共催 東京農業大学農学研究所

後援 東京農業大学教育後援会

◎基調講演（13：00～15：10）

講演1「赤城山麓で牛を飼いチーズ工房を開く」

松島 薫（有限会社松島農園「チーズ工房 Three Brown」平成12年農学科卒）

講演2「農系女子を支援する理由－農系女子が地域と未来を切り開く－」

野村 高志（高知県香南市の先駆的カンキツ農家、就農支援者）

◎討論会（15：30～17：00）

「明るい未来は農系女子にしか創れない」

コーディネーター；宮田 正信（東京農業大学総研研究会就農者推進教育研究部会長）

◎情報交換会（17：00～19：00）

場所；レストラン「けやき」（無料）

お問い合わせ先：〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737

東京農業大学農学部事務部キャリア課 担当：崎村・大淵

Tel／046(270)6228 fax／046(270)6008

E-mail／career-a@nodai.ac.jp

『ノ ケ ジ ヨ農系女子の時代』

いつ、誰が言い出したのか、詳らかに調べてはいないが、「農系女子」の言葉を聞いて膝を打った。恒例の流行語大賞にノミネートされるかどうかは分からないが、私達の世界では今年一番の出色ではなかろうか。農系女子の言葉はそれまでにあった理系女子に相対して生まれたものだろうが、精神性から言うと理系女子を凌駕している。あくまでも個人的見解だが、理系女子がリニアな成長路線を期待させるイメージであるのに対して、農系女子ではリサイクルで持続的なイメージが浮かび上がる。さらに独善と協調というイメージ対比にもなる。

産業革命以来、そして資本主義社会の中で、成長こそが豊かさをもたらし、善であるという価値観の中で、ひたすら経済成長を求めてきた。経済の意味も本来は経世済民であるはずなのに、いつの頃か「自分だけのため」「金だけのため」に変質してしまった。金のためには人や社会、環境や未来までも顧みないやり方が一般化し、それを行使できないものは弱者に貶められる有り様だ。

残念ながら技術も教育もひたすらこの道に向かっている。ここで断っておきたいのは、新しい技術を開発することが悪いと言っているのではない。技術は未来を創る極めて有用なツールであることは間違いない。その技術を誰がどのように利用するかで、人、社会、環境、未来の在り体は決定されるが、これまで私達はこのことについてないがしろにしすぎてきた。そしてこのような考え方ややり方は主として男の手によって推められてきた。女性が持つ調和型で柔軟な考えを受け入れなかった結果ではないかと考えている。

今、持続的な社会や地球を求めるとき、私達は人、社会、環境との調和を求めなければならない。その担い手となるべきは女性であり、そのツールは農業であるはずだ。そこに農系女子が希求される理由がある。農業の持つ様々な機能。安心いたしましたな食料を生産するだけでなく、環境に貢献し、福祉や教育、文化など、農業なくして持続的で豊かな社会を構築することは出来ない。農系女子無しに明るい未来はないとも言える。

狩猟採集時代から農耕時代に移行した時、それを担ったのは女性だと言われている。一箇所に定住して一所懸命で家族を守り、持続的な生活を続けてこられたのは鳥も直さず女性在ってのことである。産業革命以降に男性の主権が台頭するわけだが、その結果がこのごまだ。人も社会も環境も崩壊させ、そして未来さえも閉ざそうとしている。人、社会、環境をリハビリし、未来社会を切り拓くには女性、就中農系女子に託するしかない。そういう時代であることを意識したい。

(宮田 正信；東京農業大学総研研究会就農者推進教育研究部会長)